

平成30年度学校自己評価システムシート (県立志木高等学校)

目指す学校像	志木高スピリット (立志・言志・続志) の下、高い志を持ち、自分の夢を実現できる学校
--------	--

重点目標	1 学習習慣の確立と授業改善により、主体的な学びを推進し、学力を向上させる。 2 志木高スピリットを醸成させ、夢の実現に向けたセルフマネジメント力を身につけさせる。 3 安心・安全な学校生活を保障し、学校生活に誇りと自信を持たせる。 4 地域とともに歩む、魅力ある高校づくりを推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	10名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					30年度評価(2月1日現在)		実 施 日 平成31年2月7日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p><現状> 年3回の授業公開週間では、相互に授業をみあうことが定着した。教員研修ではテーマを設けて授業改善に取り組むなど、学校全体で授業改善に取り組む意識が醸成された。</p> <p><課題> 生徒の主体的な学びを推進し、学力の向上を図るためには、学習習慣の確立と、生徒の実態に即した授業の工夫・改善が引き続き必要である。</p>	<p>・学習習慣の自己管理能力を育成する。</p> <p>・生徒の主体的な学びを引き出す授業改善をおこなう。</p>	<p>①生徒用手帳「Shikidiary」を全ての授業等で活用し学習時間や課題、提出物等を記録させ、「学習」を管理させる。(通年)</p> <p>②各教室に新聞4紙を配布し、「読む」ことを習慣化させ、隙間時間に知識を蓄積する体験をさせる。(通年)</p> <p>③研究開発員を中心に、全ての教科で「知識構成型ジグソー法」による授業改善をおこなう。</p> <p>④授業アンケート結果を授業者と評価者(生徒)で共有し、双方から授業を改善する。(授業アンケートの実施10月)</p>	<p>○学習習慣の自己管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒用手帳活用ガイドラインを作成 ・生徒向けガイダンスの実施(年1回) ・全ての授業で手帳への記録を指導 ・手帳や新聞の活用状況に関する情報交換会の実施(学期毎年3回) <p>○授業改善について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識構成型ジグソー法による授業を互見し、研究協議を実施(学期毎年3回) ・授業アンケート結果を生徒にフィードバック ・アンケート結果に関する教科会実施 	<p>・生徒用手帳の活用ガイドラインに沿って各授業や部活等で手帳への記録を指導し学習を自己管理させた。</p> <p>・手帳や新聞の活用状況に活用した授業がおこなわれた。</p> <p>・生徒が授業アンケートを基に「各授業への要望」をまとめ、学校評価懇話会で協議し、生徒が主体的に学ぶ授業改善に活かした。</p>	A	<p>・学習の自己管理を確立させるためには、各授業で手帳への記録指導をより丁寧におこなう必要がある。また、活用例等を紹介することにより生徒自身の意識を高めることも課題である。</p> <p>・生徒の読む力の育成には、次年度以降も教職員による継続的な取組が必要である。各教室で更なる新聞活用を進めるため生徒会常任委員会の中で生徒自身に考えさせることが課題である。</p>	<p>・知識詰め込み型だけでなく、主体的、協働的に問題や課題に取り組むことで、学ぶべき内容が生徒に定着すると思う。</p> <p>・生徒用手帳の活用も素晴らしい。</p> <p>・生徒からの反応も教師の予想を越える優れた回答があったと思われる。</p> <p>・手帳の活用は強制されると反発心が生まれるので、使いたくなるような働きかけが必要。</p> <p>・自主学習のモチベーションを高める指導を引き続き期待している。</p>
2	<p><現状> 系統的な進路指導をおこない、補習への参加者が増加するなど、生徒の進路意識が高まっているが、現状に甘んじて高い志を持って高校生活を送っていない生徒も多くいる。</p> <p><課題> 志木高スピリットと関連づけた系統的な進路指導により、生徒に志を持たせ、進路実現に向けたセルフマネジメント力を育成する必要がある。</p>	<p>・進路意識を高め、夢の実現に向けたセルフマネジメント力を育成する。</p> <p>・保護者の進路意識を高め、家庭と連携した進路指導をおこなう。</p>	<p>①将来目標を生徒用手帳「Shikidiary」に記入させ、志木高スピリット(立志・言志・続志)を意識させ日々の学習に目的意識を持たせる。</p> <p>②模試や補講により、入試レベルを把握させ、早期から計画的な準備・対策をさせる。</p> <p>③進路自習室の活用や家庭学習の定着により進路実現に必要な学力を向上させる。</p> <p>④保護者に向けた進路情報を発信し、「保護者・生徒・学校」の協働により進路実現をサポートする。</p>	<p>○進路実現に向けたセルフマネジメントについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手帳の確認による進路指導部・担任・教科担当の連携(年3回以上) ・模試の参加人数の増加(前年比) ・補講開講数、参加者の増加(前年比) ・進路指導室の担当職員常駐(全進路指導担当で分担) <p>○家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者進路説明会の実施(年1回) ・進路情報の発信(HP、スマート連絡帳年5回以上 進路通信年3回) 	<p>・進路実現に向けた意識を高めるため、進路講演会等で手帳に記入させた。</p> <p>・進路自習室の活用を促すポスターを掲示し、積極的に学習する雰囲気を作った。</p> <p>・保護者向け進路講演会をおこない、進路情報を提供した。また、渉外部と連携し、進路見学会を実施するなど保護者の進路意識向上に取り組んだ。</p>	B	<p>・進路実現に向けた意識を高めるために、手帳を更に活用することが課題である。「Shikidiary」ポートフォリオ評価としての機能を活用することが必要である。</p> <p>・進路情報の発信の機会を増やし更なる協働体制を築くことが課題である。スマート連絡帳等での情報発信の内容を充実させ回数を増やす必要がある。</p>	<p>・多様な進路希望に対応する進路指導は進学校の指導よりも複雑で難しいと思う。保護者の要望も多岐に渡るため、保護者向け進路講演会の実施や進路見学会の実施など積極的に取り組んでいる。一人ひとりが目標設定できるように支援して欲しい。</p> <p>・子供を通じて情報が伝わらないことが多い。新入試制度の情報などもっと積極的に伝えて欲しい。</p> <p>・志木高スピリットをもっといろいろな場面で意識させて目標を持たせる指導が必要。</p>
3	<p><現状> 注意喚起や見守り指導により、目に見える安心・安全は確保できているが、SNSによるトラブルや交通事故等を未然に防ぐ指導が不十分である。</p> <p><課題> 学校内外での危機管理能力を育成し、トラブルを未然に防ぐことが課題である。また、生徒に自己有用感を持たせ、自ら学校生活を充実させるためには、生徒会が中心となった学校行事の充実や部活動定着率の向上が必要である。</p>	<p>・事故防止と良好な人間関係づくりを支援し、安心・安全な学校づくりを進める。</p> <p>・教育相談を充実させ個に応じた支援を提供する。</p> <p>・生徒の自己有用感を高め、学校への帰属意識を高める。</p>	<p>①交通安全教育推進校として講演会や「スクエアード・ストリート技法」による交通安全教室を実施し、交通マナーを向上させる。</p> <p>②全職員による校外交通安全指導を実施する。</p> <p>③年間を通して生徒の重大交通事故0件によるトラブルを防止する。</p> <p>④特別支援教育に関する職員研修を実施し、個別の支援プランを全職員で共有し、支援する。</p> <p>⑤他機関と連携し、ケース会議を実施する。</p> <p>⑥生徒会が企画・実施する社会奉仕活動をおこない、自己有用感を高める。</p> <p>⑦学校行事等で部活動単位の活動をおこない各部への帰属意識を高め、定着率を向上させる。</p>	<p>○交通安全の向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室や校外交通安全指導により、生徒の交通マナーが向上したが、交通事故は数件発生してしまった。 ・SNSによるトラブルを防ぐためマナー教室を実施し、啓発リーフレット等を活用し指導した。 ・ケース会議を実施し、支援を必要とする生徒の情報を共有し、学校全体で支援した。また、校内の連絡体制を整えた。 ・地域貢献活動を生徒会の企画運営で実施し、呼びかけに応じた生徒が参加し貢献の輪が広がった。 ・部活動定着率は前年度67.7%とほぼ同率に止まった。 <p>○SNSによるトラブル防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯・スマホマナー教室を年1回実施 ・ポスターの掲示や啓発資料の配布 <p>○個に応じた支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員研修の実施(年2回) ・対象生徒全員に係るケース会議の実施 <p>○生徒の自己有用感、学校への帰属意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会の企画で社会奉仕活動を実施 ・部活動単位の体育祭、文化祭の参加 ・部活動定着率の向上(前年比) 	<p>・交通安全教室や校外交通安全指導により、生徒の交通マナーが向上したが、交通事故は数件発生してしまった。</p> <p>・SNSによるトラブルを防ぐためマナー教室を実施し、啓発リーフレット等を活用し指導した。</p> <p>・ケース会議を実施し、支援を必要とする生徒の情報を共有し、学校全体で支援した。また、校内の連絡体制を整えた。</p> <p>・地域貢献活動を生徒会の企画運営で実施し、呼びかけに応じた生徒が参加し貢献の輪が広がった。</p> <p>・部活動定着率は前年度67.7%とほぼ同率に止まった。</p>	B	<p>・交通安全教育推進校として取り組んだ成果を活かし、引き続き事故防止に取り組む必要がある。新1年生の交通事故事故防止に向け、入学後早い段階で交通安全指導を実施することが課題である。</p> <p>・カウンセリングの希望が増加しており、今後も外部機関等と連携し教育相談を充実させることが課題である。</p> <p>・ボランティアだけでなく、自己有用感を高める成功体験の場を増やすことが課題である。学校行事や部活動への関わりを通して、学校への帰属意識を高める工夫が必要である。</p>	<p>・交通事故の発生件数0件を目指して、引き続き交通安全の指導をていねいに実施していただきたい。その他の取組みはほぼ達成している。</p> <p>・ボランティア活動が強制的な取り組みにならないよう、生徒の皆さんが誘いあって積極的に活動することを期待している。折角東京オリンピックがあるのでオリンピックに積極的に関わってほしい。</p> <p>・地域密着なことは志木高校の魅力のひとつだと思う。生徒さんは、今すぐに活動の意義を理解できないかもしれないが、活動の広がりや繋がりを理解できると良いと思う。</p> <p>・学校への愛着を高め、より充実した高校生活を送るためにも学校行事や部活動への関わりを深めてもらいたい。</p>
4	<p><現状> ホームページをリニューアルし、情報発信を積極的におこなっている。地域に根差した学校として、地域貢献に取り組んでいる。</p> <p><課題> 本校の魅力を積極的に発信し、本校のファンを増やすことが必要である。また、10年後を見据えた志木高校の今後を検討し、平成34年度入学生教育課程編成においてカリキュラム・マネジメントを確立することが課題である。</p>	<p>・志木高校の魅力を積極的に発信する。</p> <p>・志木高校の魅力を発掘し、今後の志木高校のあり方を検討する。</p>	<p>①HPを1日1回以上更新し、学校生活や生徒の活躍を積極的にPRする。</p> <p>②スマート連絡帳を導入し、タイムリーな情報を発信する。</p> <p>③中学生向けに志木高だよりを発行し、入試情報等を伝える。</p> <p>④中長期的な志木高ビジョンを検討し、平成34年度入学生の教育課程編成においてカリキュラム・マネジメントを確立させる。</p> <p>⑤生徒募集を全職員で分担し、学校全体で取り組む。</p>	<p>○魅力発信について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPの更新(1日1回以上) ・「こころざし日誌」のページを全職員で分担(分担による情報発信) ・スマート連絡帳による情報発信(緊急情報、その他年5回以上) <p>○魅力発掘について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来構想委員会の実施(年3回以上) ・カリキュラムマネジメントに関する職員研修の実施(年1回) ・学校説明会の担当を全職員で分担 	<p>・ホームページを全職員で分担し1日1回以上の更新を達成し、学校全体で情報発信をおこなった。</p> <p>・スマート連絡帳を導入し緊急情報を中心に情報を発信した。</p> <p>・将来構想委員会を立ち上げ、将来構想のイメージを全職員で共有した。</p> <p>・学校説明会を全職員で分担し全体で取り組んだ。</p>	A	<p>・引き続き全職員が志木高校の魅力発信に関わる必要がある。また、情報を受け取る側の利便性に配慮し、スマート連絡帳への情報発信も充実させることが課題である。</p> <p>・平成34年度入学生の教育課程編成に向け、ビジョンを共有できるよう将来構想会議を進め、平成31年度中に「見える化」することが課題である。</p>	<p>・ホームページの1日1回以上の更新は本当に素晴らしい。</p> <p>・HPの更新は1日1回にこだわりすぎると負担になるのではないかと。更新回数にこだわらず充実させれば良いと思う。</p> <p>・情報を得る手段はほとんどがスマートフォンだと思う。HPに情報を置くだけでなく、SNSを積極的に活用しなければ情報の発信とは言えないと思う。</p> <p>・志木市の非行・薬物乱用防止キャンペーン等では、志木高生が活躍してくれている。今後も地域との関わりを協力・支援したい。</p>